

# 第 92 期中間株主通信

2017.4.1 ▶ 2017.9.30



証券コード：6863

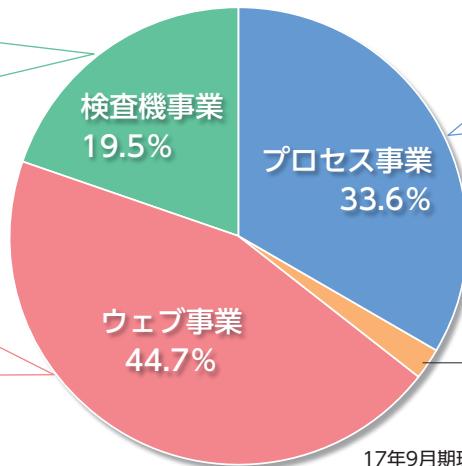
# 制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」の理念の下、様々な分野で貢献してまいります。

## 売上構成

当社が長年にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物に至るまで幅広い製品を対象とした検査装置を取り扱う事業

製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象に、シート状製品の位置制御装置などを取り扱う事業

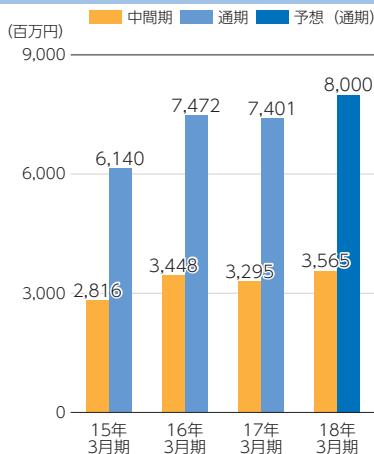


鉄鋼・非鉄金属の生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

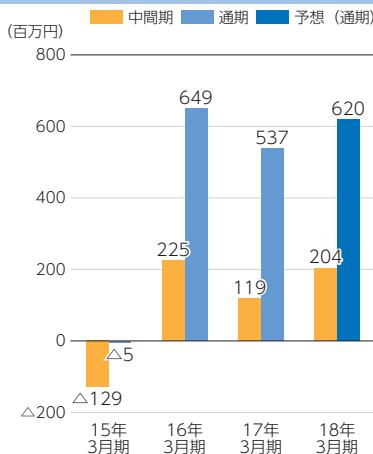
17年9月期現在

## 業績ハイライト

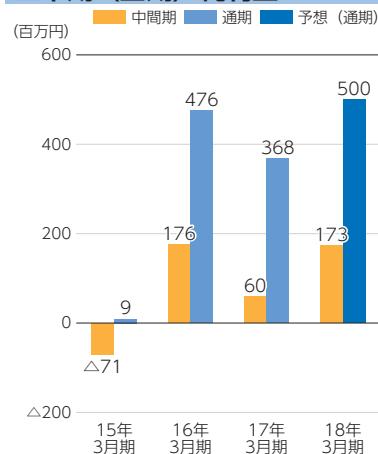
### 売上高



### 営業利益



### 親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益



**当上期は前年同期比で売上高、営業利益ともに上回り、純利益につきましては期初公表いたしました目標値を上回る結果となりました。中間配当金は期初計画どおり10円とさせていただきます。**



代表取締役社長 久保田 寿治

## ●当上期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年9月30日をもって終了しました第92期上期の業績結果をご報告申し上げます。

世界経済は、米国や欧州を中心に景気の回復が鮮明になり、総じて拡大傾向が続きました。わが国経済も、好調な世界経済を背景とした企業業績の伸びや堅調な個人消費により緩やかな回復基調が続きました。

当社グループ（当社及び連結子会社）の主要取引先であります鉄鋼業、化学工業、印刷業、紙加工業、電子部材メーカー、食品メーカーなどの設備投資に向けた動きは、需要の伸びを背景に堅調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは、いかなる環境下においても成長できる体制の実現を目指し、海外販売の拡大、食品関連市場の開拓を進めるとともに、当社グループが設立以来培ってきたセンシング及び画像処理技術の強化に注力しました。

この結果、当上期の業績につきましては、売上高3,565百万円（前年同期比108.2%）、営業利益204百万円（前年同期比171.8%）、経常利益257百万円（前年同期比194.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益173百万円（前年同期比286.1%）となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株あたり10円とさせていただきます。

## ●当下期の見通しについて

当下期の見通しといたしましては、米国を中心として世界経済は景気拡大が続くものと想定しておりますが、わが国経済においては株価の上昇などにより景気回復に向けた明るい兆しが見られるものの、一方で北朝鮮の地政学リスクの高まりなど今後の市場動向を見極めたいという慎重な姿勢も見られることから決して楽観視できないものと考えております。

このような状況において、当社グループは、「市場の拡大」、「技術の進化」、「経営体質の強化」を重点テーマに掲げ、新市場の積極的な開拓によりいかなる環境下においても成長できる体制の実現を目指し、更なる企業価値向上に向けて取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 2018年3月期連結業績予想

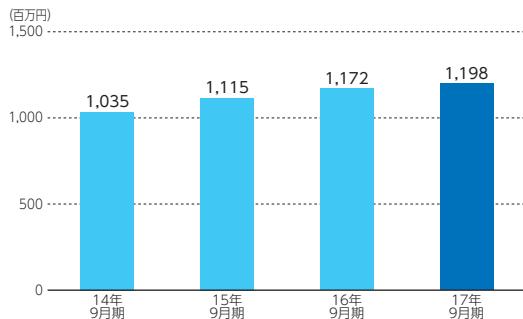
（単位：百万円）

	金額	前期比
売上高	8,000	+8.1%
営業利益	620	+15.4%
経常利益	720	+25.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	500	+35.6%

## プロセス事業

## ■ 売上高

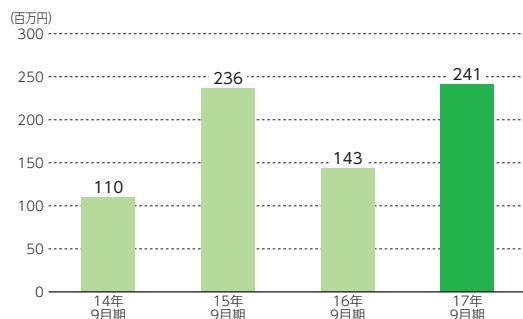
1,198百万円



2.2%

## ■ セグメント利益

241百万円



68.3%

当事業の主要取引先であります鉄鋼業界は、鋼材需給バランスが改善傾向にあるものの、過剰生産能力問題は解消されておらず、鉄鋼メーカーの設備投資動向に影響を及ぼしております。このような状況の下、当社グループは、国内については、生産継続に欠かせない老朽設備の修理・更新、部品販売といったメンテナンス需要の取り込みを引き続き注力するとともに、鉄鋼製品の品質と生産効率向上につながる製品群の積極的な提案に努めました。また、海外については、韓国でメカトロ事業を開始するなど、アジア諸国の高級鋼材メーカーにおけるシェア拡大に向けた子会社の環境整備や顧客開拓を進めました。

その結果、当事業の売上高は1,198百万円（前年同期比102.2%）、セグメント利益は241百万円（前年同期比168.3%）となりました。

## 下期の展望

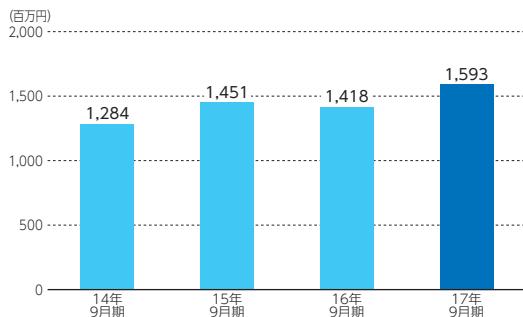
鉄鋼製品の需給バランスや原料価格において改善の兆しがみられるものの、設備投資については依然として楽観視できないものと想定しております。このような状況の下、当社グループは、国内においては引き続き老朽設備の修理・更新のみならず、品質と生産効率

向上につながる製品群を積極的に提案し、需要の取り込みを図ってまいります。海外においては堅調な需要が続くと想定される中国・韓国に注力し、協業により拡充された製品を投入することで市場開拓を進めてまいります。

# ウェブ事業

## ■ 売上高

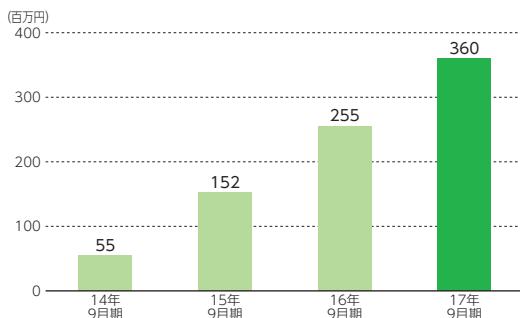
1,593百万円



12.3%

## ■ セグメント利益

360百万円



41.4%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、フラットパネルディスプレイや二次電池需要の拡大に伴い、電子部材の増産に向けた設備投資が拡大しました。もう一方の主要取引先であります印刷業界は、食品向け軟包装市場の設備投資が堅調に推移しました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界並びに食品向け軟包装市場へ向けて印刷絵柄を基準とした位置制御装置などの販売を強化するとともに、修理・整備、部品販売等のサービス需要獲得、部材の共通化によるコスト削減に引き続き注力しました。

その結果、当事業の売上高は1,593百万円（前年同期比112.3%）、セグメント利益は360百万円（前年同期比141.4%）となりました。

## 下期の展望

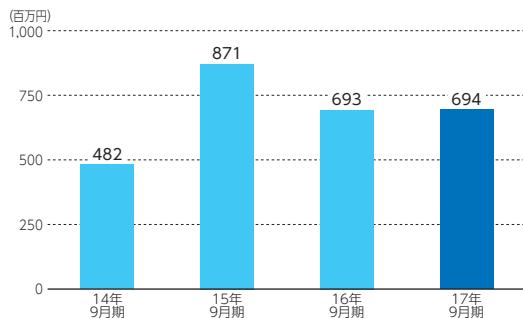
高機能フィルム業界の設備投資は、二次電池、フラットパネルディスプレイ向けを中心に設備投資需要は引き続き堅調に推移するものと想定しております。また印刷業界は加工食品向けの特種印刷、軟包装向けを中心に設備投資需要は安定的に推移すると想定して

おります。このような状況の下、当社グループは、引き続き収益性の強化に取り組むと同時に、引き合いが高い水準で推移している絵柄を基準とした位置制御装置の販売拡大、印刷品質検査装置の台湾を中心とした現地生産・現地販売の拡充、サービス需要の取り込みにより、シェアの拡大を目指してまいります。

## 検査機事業

## ■ 売上高

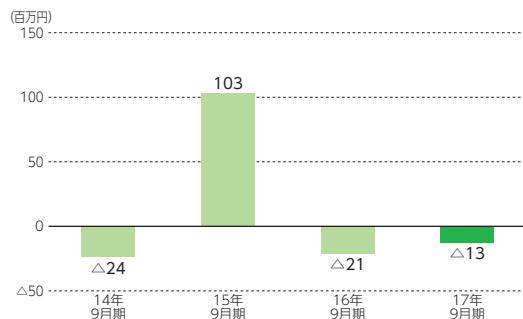
694百万円



0.2%

## ■ セグメント利益

△13百万円



当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、フラットパネルディスプレイや二次電池などの電子部材品質検査装置に対する需要が堅調に推移しました。もう一方の主要取引先であります食品関連業界は、食の安全・品質に対する意識の高まりを背景に食品検査装置に対する需要の拡大が続きました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界に対し、無地検査装置の豊富なラインアップによる提案を進めました。また、食品関連業界に対し、潜在需要の開拓に向けて外観検査装置の積極的な提案に努めました。

その結果、当事業の売上高は694百万円（前年同期比100.2%）、セグメント損失は13百万円（前年同期はセグメント損失21百万円）となりました。

## 下期の展望

高機能フィルム業界は、二次電池、フラットパネルディスプレイの電子部材向けの検査需要が今後も引き続き堅調な中で、より高い精度の検査装置を求める傾向が強まるものと想定しております。また、食品関連業界については食の安全・品質に対する意識の高まりを背景に、設備投資需要の拡大傾向が続くものと想定

しております。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界については引き続き無地検査装置を積極的に提案し、ユーザーが求める検査精度を実現することで需要の取り込みを図ってまいります。食品関連業界については野菜や青果物を対象とした選果装置をはじめとした食品検査装置の提案及びサービス体制強化に努めてまいります。

## 展示会情報

当社はより多くのお客様に製品を体験いただくため、国内外の様々な展示会へ出展しています。

### 第92期上期の主な出展実績

#### 第8回高機能フィルム展

(東京ビッグサイト)

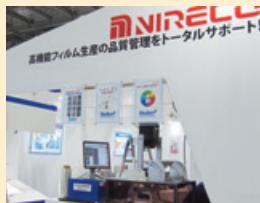
##### ■ 展示会概要

様々な産業分野で活躍する機能性フィルムの産業展です。

##### ■ 出展内容

フィルムの成形加工をする上で走行中の位置や張り具合を一定に保つウェブ制御装置。

製品に係る素材の品質、欠陥を検査する装置を出展いたしました。



#### JSTフェア

(東京ビッグサイト)

##### ■ 展示会概要

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 発の基礎研究・製品化事例展です。

##### ■ 出展内容

株式会社メガオプトより超小型波長可変パルスレーザーを出展いたしました。



#### AISTech 2017

(Music City Center, Nashville, アメリカ テネシー州)

##### ■ 展示会概要

製鉄ラインにおける先進製品・サービスの情報を提供する国際展示会です。

##### ■ 出展内容

製鉄ラインの上流から下流まで品質と生産効率を支えるために欠かすことのできない様々な装置を出展いたしました。

#### 第30回インターフェックスジャパン

(東京ビッグサイト)

##### ■ 展示会概要

医薬・化粧品・洗剤を研究・製造するための専門技術展です。

##### ■ 出展内容

箱を開けずに医薬品の効能書有無を精度良く検出する検査装置を出展いたしました。



#### JASIS 2017

(幕張メッセ)

##### ■ 展示会概要

分析・科学機器専門の産業展です。

##### ■ 出展内容

近赤外分析計を出展。化学・製薬などの各種アプリケーションをご紹介しました。

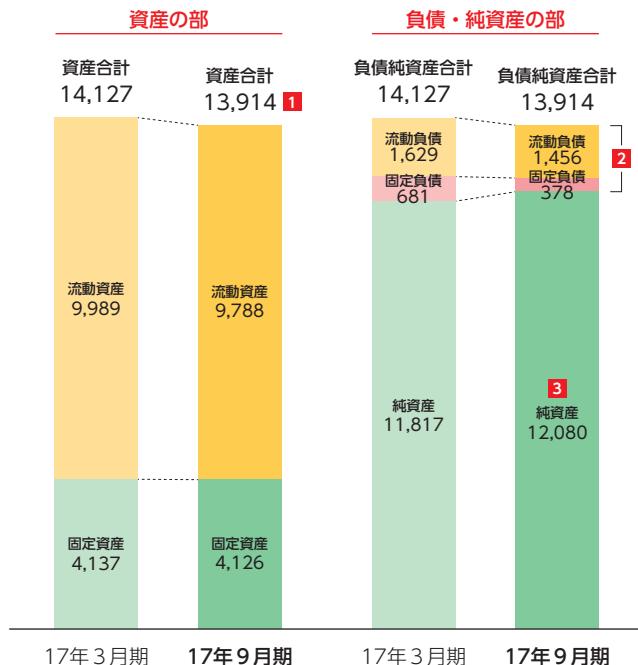


### 第92期下期出展計画

イベント名	開催予定日	会場
2017洗浄総合展	11/29 (水) ~12/1 (金)	東京ビッグサイト

# 連結財務諸表

## 第2四半期連結貸借対照表 (単位：百万円)



## Check Point

### 1 資産

13,914百万円 (前期末比△212百万円)

受取手形及び売掛金などの売上債権の回収により、13,914百万円となりました。

### 2 負債

1,834百万円 (前期末比△475百万円)

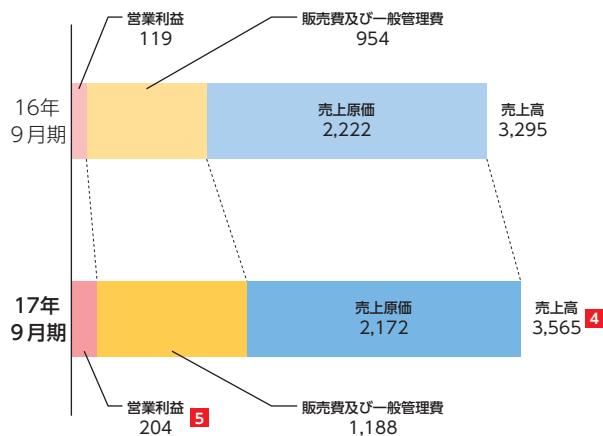
長期借入金の返済により、1,834百万円となりました。

### 3 純資産

12,080百万円 (前期末比+262百万円)

親会社株主に帰属する四半期純利益の増加、並びにその他投資有価証券評価差額金の増加などにより、12,080百万円となりました。

## 第2四半期連結損益計算書 (単位：百万円)



### 4 売上高

3,565百万円 (前年同期比+270百万円)

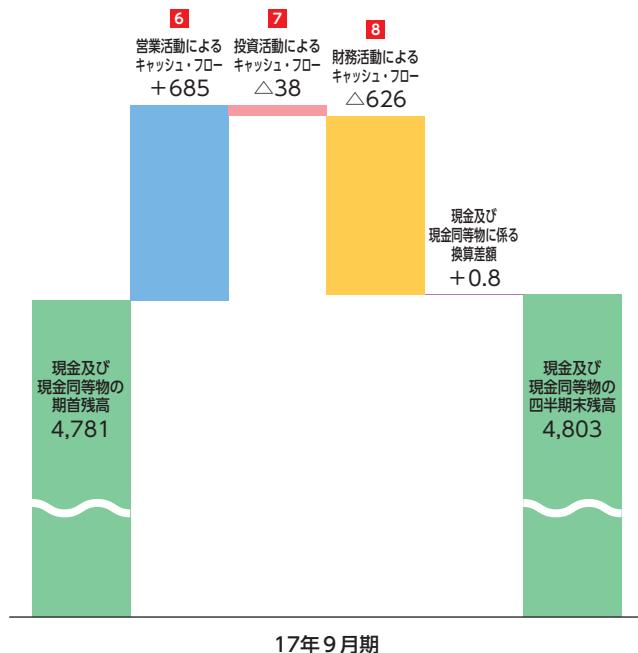
プロセス事業、ウェブ事業の売上高が前年同期比で上回ったことにより、3,565百万円となりました。

### 5 営業利益

204百万円 (前年同期比+85百万円)

プロセス事業、ウェブ事業の収益性改善により、204百万円となりました。

## 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



## Check Point

### 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

685百万円 (前年同期比+276百万円)

利益計上、並びに売上債権の回収などにより、+685百万円となりました。

### 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

△38百万円 (前年同期比△74百万円)

定期預金の増加により、△38百万円となりました。

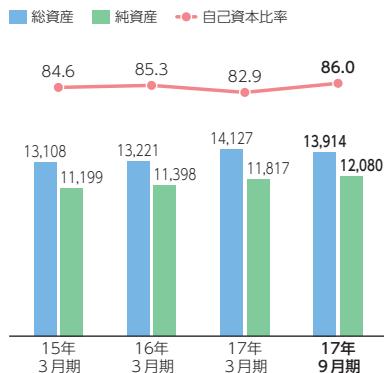
### 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

△626百万円 (前年同期比+478百万円)

長期借入金の返済、並びに配当金の支払などにより、△626百万円となりました。

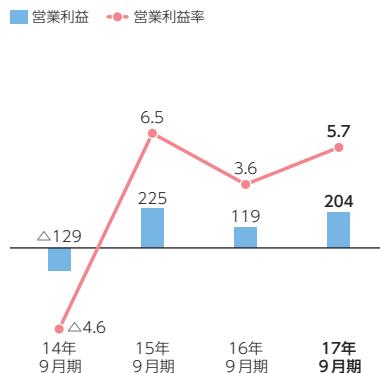
## 総資産、純資産及び自己資本比率

(単位：百万円、%)



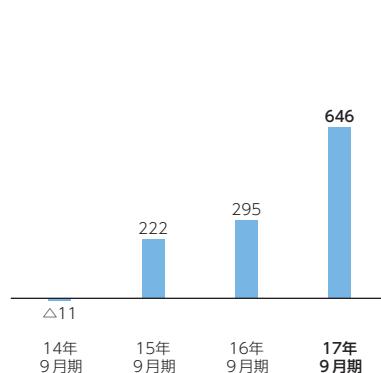
## 営業利益、営業利益率

(単位：百万円、%)



## フリー・キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



# 株式の状況

## 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

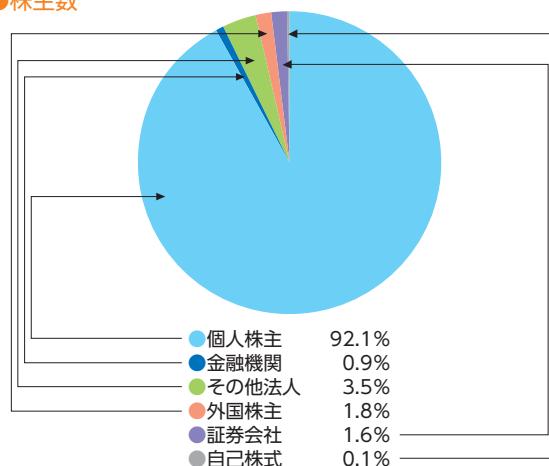
発行可能株式総数： 39,400,000株  
 発行済株式の総数： 8,305,249株  
 株主数： 1,410名  
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	580	7.8
ニレコ取引先持株会	482	6.5
極東貿易株式会社	469	6.3
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGMLPB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	332	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	284	3.8
ニレコ従業員持株会	248	3.3
浅井美博	238	3.2
株式会社ヒラノテクシード	177	2.4
帝国通信工業株式会社	118	1.6

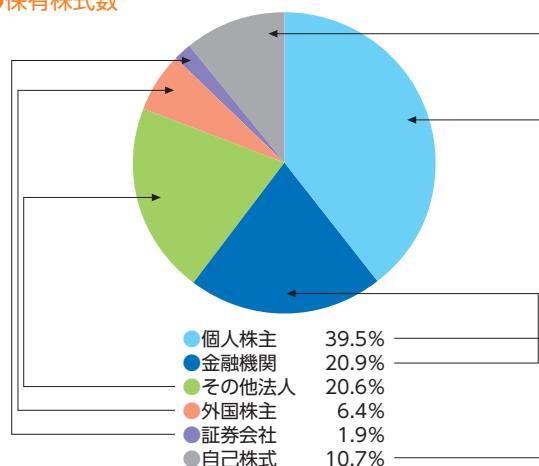
(注) 上記以外に、当社は自己株式889,187株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況

### ●株主数



### ●保有株式数



# 会社情報

## 会社の概要 (平成29年9月30日現在)

商 号：株式会社ニレコ

英 文 商 号：NIRECO CORPORATION

本 店 所 在 地：東京都八王子市石川町2951番地4

設 立：昭和25年11月

資 本 金：3,072百万円

## 役員 (平成29年9月30日現在)

会社における地位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役社長 ※1	久保田 寿 治	CEO
取 締 役 ※1	河 西 辰 雄	W&I営業部門長
取 締 役 ※1	碓 光 司	管理部門長
取締役監査等委員 ※2	中 野 厚 徳	
取締役監査等委員 ※2	橋 本 光 男	
取締役監査等委員 ※2	佐 藤 順 一	

※1 執行役員を兼任しております。

※2 会社法に定める社外取締役です。

### 執行役員

藤原 利之 尼利可自動制御機器(上海)有限公司董事長  
兼 仁力克股份有限公司董事長

小林 正明 開発部門長

三浦 誠 プロセス事業部長

大澤 祐二 W&I技術部門長

浅川 直仁 生産管理部長兼品質管理部長

# 株主メモ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会  
開 催 時 期 6月下旬

定時株主総会議決権  
行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領  
株 主 確 定 日 3月31日

中間配当金受領  
株 主 確 定 日 9月30日

法定公告は次のURLに掲載しております。  
<http://www.nireco.jp/ir/notice/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特 別 口 座 の  
口 座 管 理 機 関 三菱UFJ信託銀行株式会社

○同事務取扱場所  
〒100-8212  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

○郵便物送付及び電話照会先  
〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>    
アクセスコード **6863**

  kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

**ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます**

 ※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する  
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ  
以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

## ホームページのご案内

<http://www.nireco.jp>

7月にIRページをリニューアルいたしました。最新ニュースをはじめ事業内容・業績報告などを詳しくご案内しております。ぜひご覧ください。

### トップページ



### IR関連情報



### 株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4  
電話 042-642-3111 (代表)

UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

